

倫理委員会議事概要

開催日時 平成30年6月28日（木）16:00～17:20

場 所 第1会議室

出席者 大山診療部長（委員長）、菅野内科医長
曾我事務部長（副委員長）、浅沼看護部長、豊田管理課長
佐々木外部委員、鈴木外部委員
欠席：小原神経内科医長

記録：豊田管理課長

進 行 申請者による倫理審査申請の説明、質疑応答

1. <申請者による説明後質疑応答>

- 1) 自己排痰困難な多系統萎縮症患者（MSA-C）に対し、MI-Eを使用した排痰介入について
 - ・第20回岩手県理学療法士学会での発表。
 - ・今回の方法は新しいものか。
→日常から行っているものであるが、経口的使用例が少なく、症例報告したい。
 - ・有効だとする評価が難しくないか。評価指標はないのか。
→代理で来ているので分かりません。

- 2) 在宅療養環境を知る上での当院外来での取り組み～在宅療養スクリーニング活用語の有効性を検証～
 - ・スクリーニングシートの見本を作るのか。
→文献を参考にして作ります。
 - ・看護師の主観によりバラツキが生じないか。
→個人評価を主体として行います。
 - ・患者のサインを見逃さずとあるが、指標がないと各個人の意識的なところによる
ことが大きいのでないか。
→事前学習で均一化を徹底する。
 - ・スクリーニングシートの「予約日、予約時間を忘れる」で、例えば1日に1回と
か1年に1回とか頻度により捉え方が違うのでないか。
→判断指標を共有化して対応します。
 - ・有効性を何で評価するのか。
→スクリーニングシートを使うことによって行います。
 - ・看護師の経験によりバイアスにならないか。また、対象が看護師10名で個人が

特定されないか。

- 3) 入院時情報をもとにした初期看護計画の充実化を図る
 - ・何をもって充実化とするのか。評価の指標はないのか。
→スタッフの意識を前後比較することにより、一定の問題点を抽出し改善を充実化とした。
- 4) 円滑な退院支援に向けたコミュニケーション技術獲得を試みて～コーチング研修を利用して～
 - ・タイトルの変更
→「円滑な退院支援に向けたコミュニケーション技術獲得の試み」
 - ・コーチング研修は今回はじめてか。
→はい。
 - ・研修自体はよいが、アンケート結果が研究対象となるのか。
- 5) 障害者病棟に勤務している看護師の思い
 - ・顔見知りの看護師が仲間を面接して正当な回答が得られるか疑問。関わりのない人がやらないと手法に無理がある。
 - ・テーマの「思い」は研究テーマとして見直しが必要。
 - ・対象者6名は量的に少なすぎないか。
→質的であれば十分で考えています。
- 6) 自己評価法を取り入れた看護記録監査への取り組み
 - ・方法②の記入漏れの書き加えという表現は誤解を招くので見直しが必要。

2. <判定>

全て条件付承認とする。

なお、2)～6)については、見直し後の申請書一式を事務局に再提出し、事務局は委員に持ち回り決裁を行い承認を得ることとする。